

清須市

Kiyosu City
Haruhi Painting Triennale
Artist Series

はるひ絵画トリエンナーレ

アーティストシリーズ



寺本明志《Patio - 写真を撮られる人 -》

Akashi Teramoto



瀬川 寛《耕地 / 中標津町》

Yutaka Segawa



古橋 香《Sleeping Seabirds》

Kaori Furuhashi

寺本 明志 展

Vol.99

2022.11.26(土) - 12.25(日)

瀬川 寛 展

Vol.100

2023.1.7(土) - 2.5(日)

古橋 香 展

Vol.101

2023.2.11(土・祝) - 3.12(日)

開館時間 | 10:00 - 19:00 (入館は18:30まで)

休館日 | 月曜日 (祝日の場合は開館、翌平日が休館)、
12/27 - 1/6

観覧料 | 一般 200円、中学生以下無料

※20名以上の団体は1人160円

※各種障がい者手帳等提示者は無料 (付添者は1人100円)

主催 | 清須市はるひ美術館

清須市はるひ美術館



〒452-0961 愛知県清須市春日夢の森1番地
TEL 052-401-3881

清須市はるひ美術館はTRC・名古屋三越グループ共同事業者が管理・運営しています。

同時開催 | 清須市はるひ美術館 収蔵作品展

清須市

はるひ絵画トリエンナーレ アーティストシリーズ

Kiyosu City
Haruhi Painting Triennale
Artist Series

Vol.99 寺本 明志 展

冒険と選択

子供の頃の夢は、探検家だった。
目の前に一歩進むたびに、何かが起きる、そんなことを夢見ていた。
どんな動物がいて、これからどんな冒険が待っているのか、
自然と進む先を想像し、選び、過ごしていた。

Patio (中庭)を屋内と屋外の間にある場所として描いている。ものや動物、何か行動をする人が統一性もなく、場に存在する。その状態はPatioの屋外／屋内における、中立的な場所の性質により、ただそこに存在することに特別な違和感がない。屋外または、屋内であるべき姿を強要しないのだ。唯一、個々の存在をつなぐものは、Patioで起きる現象である。光の反射や影、天候や風の強弱、水の流れや土地の状態。散々と存在していたものが、環境による調和、または想定外の事象により紐付けられ、全て等価に、ただそれらの存在のあるがままを描くことができる。

Vol.100 瀬川 寛 展

出張などで飛行機に乗るたびに、眼下に広がる田園風景に見惚れ、絵に描きたいと長年考えていました。現在、グーグルアースなどの衛星から送られてくる画像を手掛かりに、キャンバスに向かっていきます。人間が作ってきた耕地は、どこまでも広がろうとしています。森や河川は、大切にされ絶対的に存在しています。稲や野菜や牧草の恵みを頂くために、大地がもたらす恩恵と共存していくことの重要さが、当然のありようのように地形をつくり、その形と色が、美しいと私は感じているのではないかと思います。それは、自然の力から収穫を得る、人間の数千年に及ぶ知恵でもあり、人間がこれ以上自然に逆らってはいけない、単純な映像を見ているのではないかと思います。

Vol.101 古橋 香 展

二面性を持つ身近なものへの興味を起点に、絵画を制作しています。分断／パラレル／共存／浮遊／穴／重力／透明性、etc. 絵は些細なニュアンスの暫定的な集合体のようなものです。ある時期、ふと現象を描いてみようと考え、ぼやけたフェンスのようなものを主とした絵を始めました。手前に実体のないものを、奥に存在感の強い何かを置くという、ささやかな転覆の思いつきが起点でした。しかし描き始めてみれば、抽象性、象徴性、色、視覚的な重さなど、かつてよりあった問いに触れることになり、それへの応答が微妙にかたちを変えながら現在まで連なっています。少しずつ遠くへ、指先が届くことを願って描いています。

●関連イベント

寺本明志 ワークショップ

11月27日(日) 14:00- ※詳細は当館ウェブサイトにてお知らせいたします。

クロストーク 瀬川 寛×高北幸矢 (清須市はるひ美術館館長)

1月7日(土) 14:00- [申込み不要]

瀬川 寛 アーティストトーク

1月21日(土)、2月5日(日) 各日 14:00- [申込み不要]

クロストーク 古橋 香×鷲田めろ (和田市現代美術館館長、清須市第10回はるひ絵画トリエンナーレ審査員)

2月11日(土・祝) 14:00-15:00 [申込み不要]

*会場はいずれも清須市はるひ美術館 *参加者が多い場合は人数制限を設ける場合があります。
*新型コロナウイルス感染症等の影響により開催内容が変更となる場合があります。

清須市はるひ美術館では1999年の開館以来、新たな才能の発掘・育成を目指し、絵画(平面作品)の公募展を継続して開催してきました。「アーティストシリーズ」は、この公募展で高く評価された作家から厳選し、1名ずつ個展形式で取り上げる展覧会です。

今回は、2021年4月～6月(審査は2021年2月)におこなわれた公募展「清須市第10回はるひ絵画トリエンナーレ」の受賞者のなかから、寺本明志、瀬川寛、古橋香をご紹介します。シリーズを通して作家それぞれの個性を改めてお楽しみいただければ幸いです。

2022.11.26(土) - 12.25(日)

Akashi Teramoto

1992年神奈川県生まれ。2017年多摩美術大学大学院博士前期課程(修士)絵画専攻油画研究領域修了。2022年個展「Patio」Bambinat Gallery(東京)、グループ展「In search of others」KOTARO NUKAGA(東京)、2人展「隣り合わせ」KATSUYA SUSUKI GALLERY(東京)、2021年2人展「犬も歩けば棒にあたる」Art space Kaikas(神奈川)、2016年・2017年「アタミアートウィーク」熱海市街(静岡)など。現在は相模原市のスタジオ Art space Kaikasを拠点に、展示・制作を行う。

清須市第10回
はるひ絵画トリエンナーレ審査員賞(吉澤美香)



寺本 明志 (Patio - 地図を書く人 -)

2023.1.7(土) - 2.5(日)

Yutaka Segawa

1956年東京都生まれ。2022年第40回 上野の森美術館大賞展 入選、2021年第56回 神奈川県美術展 準大賞、2020年FACE 2020 損保ジャパン日本興亜美術賞 入選、2018年全国公募 第2回 日美展(絵画部門) 大賞・外務大臣賞、公募-日本の絵画2018 佳作賞など。

清須市第10回
はるひ絵画トリエンナーレ審査員賞(高北幸矢)



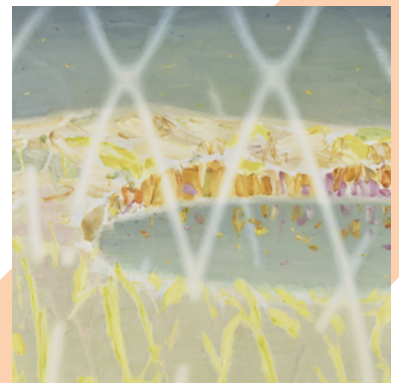
瀬川 寛 (水田 / 象潟町 横岡)

2023.2.11(土・祝) - 3.12(日)

Kaori Furuhashi

1982年東京都生まれ。2004年筑波大学芸術専門学群美術専攻卒業。2007年筑波大学大学院修士課程芸術研究科修了。2022年グループ展「絵画のゆくえ2022」SOMPO美術館(東京)、2020年「シェル美術賞展2020」国立新美術館(東京) [18]、2019年個展「泥濘の島」Viento Arts Gallery(群馬)、「中之条ビエンナーレ2019」旧第三小学校(群馬) [15]、「FACE展2019 損保ジャパン日本興亜美術賞展」損保ジャパン日本興亜美術館(東京)、2017年「BankART Life V - 観光 Under 35 2017」BankART Studio NYK(神奈川) など。

清須市第10回はるひ絵画トリエンナーレ準大賞



古橋 香 (草色と午後、忘れること)

- 電車でお越しの場合
 - ・JR東海道本線「清洲駅」下車、徒歩約20分
または「きよすあしがるバス」をご利用ください
 - ・JR東海道本線「稲沢駅」下車、タクシーで約10分
 - ・名鉄本線「新清洲駅」下車、タクシーで約10分
 - 車でお越しの場合
 - ・名二環、清洲東ICより約5分
 - ・名神高速道路、一宮ICより約20分
 - ・JR東海道本線「稲沢駅」下車、タクシーで約10分
 - ・名古屋高速道路、一宮からは春日出口より約5分、名古屋からは清須出口より約5分
- ※無料駐車場をご利用ください。(104台)

夢広場はるひ 清須市はるひ美術館

〒452-0961 愛知県清須市春日夢の森1番地 TEL 052-401-3881 <http://www.museum-kiyosu.jp>

